令和７年度　東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程学位論文要旨

「柔らかな絵画」の解毒作用

東京藝術大学大学院美術研究科
博士後期課程美術専攻日本画研究領域
学籍番号　1323903
福田 彩乃

論文要旨

私はこれまで、人物の表情や佇まい、日常生活の中で目にするモチーフを手がかりとして、記憶や想いといった曖昧で形を持たないものを、絵画作品という可視化される形に置き換えて表現することを試みてきた。具体的には、自身の記憶や感情が、制作行為による再解釈を通して、自身の中に受け入れられていく。すなわち「記憶と感情の可視化」である。この作用を、本論文においては「解毒作用」と呼ぶことにしたい。

こうして表現した自身の記憶や感情は、鑑賞者の個々の経験と結びつき、多様な解釈や感情を呼び起こす可能性があることを、他者から作品を鑑賞される体験により発見することができた。そうした鑑賞者の反応の中で、私は特に他者から寄せられる共感に着目するようになった。この共感は必ずしも普遍的に成立するものではなく、私と似たような経験や心理的背景を持つ鑑賞者との間でのみ生じる傾向がある。この限定性への気づきは、他者との情緒的な結びつきに乏しかった自身の過去の経験とも呼応し、作品の「解毒作用」が自身だけではなく他者にも影響しうる可能性への関心へと繋がっていった。当初、自身の感情や記憶の備忘録という私的で閉じられたものとして始まった「絵を描く」という行為は、次第に他者の抱える記憶や感情に柔らかく寄り添う手段としての側面を併せ持つようになった。

また、自身が扱う絵画素材が内包する多様な性質や、それと結びつく東洋的な思想を自身の視点から再解釈し、制作の目的とともに掘り下げていくことで、単なる懐古趣味にとどまらない「現在の私」だからこそ可能な創作表現を試みる。加えて、他者への「解毒作用」について考察することにより、制作の意義を明らかにすることが本論文の目的である。

本論文は３章で構成される。

第１章　「記憶と感情のかたち」

第１節「逃避と執着」では、心理学における「逃避」と、不安定な「アタッチメント」やそこから生じる柔らかな手触りの物への執着について言及する。これらの心理状態と、作品制作の動機である「逃避願望」との関わりについて考察する。

第２節「モチーフ」では第１節をうけて、記憶や感情を可視化する役割をもつモチーフについて論述する。自身の作品制作を振り返ると、その時々で絵画空間の構成や使用素材は変化しているものの、描くモチーフには共通点がある。こうした共通点が示す、自身の記憶や感情と密接に結びついている執着心と、その表現方法について考察したい。

第３節「寄り添う」では、制作行為が他者へ作用する可能性への気づきについて考察し、自己と他者との柔らかな境界線上で生まれる共感を言語化する。そして、作品のもつ両義性を「毒」と「薬」と称し、作品の作用を「解毒作用」として示したい。

第４節「素描と記憶」では、私的な備忘録としての役割を担う素描や下図について論述したい。自身が記憶する上で必要としている感覚について考察し、作品制作との関わりについて言及する。

第２章　「素材の作用」

第１節「柔らかく描く」では、鑑賞時における視覚的な情報のみならず、作品制作時に素材を扱う感触や、素材の成り立ちにも柔らかさを見出したことについて述べたい。それをうけて探求した使用素材や技法が、作品にもたらした影響について解説する。

第２節「暮らしと素材」では、絵画素材の文化的な背景の研究としてのフィールドワークについて解説したい。そして、そこから見出した素材の成り立つ要素と、漢方薬と古典的色材の関係性といった、東洋的思想との接点について述べ、それらが自作品へ与えた影響について考察する。

第３節「仕立てる」では、作品を「仕立てる」行為と、自身の制作の動機である「逃避」との関わりについて論じる。正麩糊や多くの和紙などを扱う身体感覚、そして素材のもつ可逆性や、屏風や掛軸といった形式がもつ移動性と自作品の結びつきを考察する。

第３章　「提出作品」

第１節「空間構成」では、日本の絵画における古典的な様式や空間構成への関心がもたらした自作品への影響について述べたい。これらの空間意識の観点から、自身と鑑賞者の作品をみる視点について考察する。そして、屏風という形式のもちうる「繋ぐ」「隔てる」という両義性が、自作品におけるさまざまな相反するものを内包する可能性について述べたい。

第２節「提出作品」では、「解毒作用」をキーワードとし、提出作品「safe haven」の解説をおこなう。提出作品における「柔らかさ」について、制作過程を交えて論述する。さらに、作品のもつ「安全な避難所（safe haven）」としての機能について考察したい。

「おわりに」では本論文を総括し、今後の展望を述べ結びとする。

目次

はじめに

第１章　　記憶と感情のかたち

第１節　逃避と執着

第２節　モチーフ

第３節　寄り添う

第４節　素描と記憶

第２章　　素材の作用

第１節　柔らかく描く

第２節　暮らしと素材

第３節　仕立てる

第３章　　提出作品

第１節　空間構成

第２節　提出作品

おわりに

参考文献一覧

図版出典一覧